

2011年 1月24日

苫小牧市長
岩倉博文様

北海道平和運動フォーラム

代表 箱山 富美子

代表 江本 秀春

代表 山田 剛

平和運動フォーラム日胆地域協議会

代表 小林 広樹

米海軍ミサイル駆逐艦「グリッドレイ」苫小牧港入港を許可しないよう求める申し入れ

<要請趣旨>

貴職におかれましては、日頃から市民の安全・安心な暮らしを守るとともに、ゆたかな生活の実現のためご奮闘されていることに対して心より敬意を表します。

米海軍ミサイル駆逐艦「グリッドレイ」の2月5日から9日までの間の寄港要請が、苫小牧海上保安部を通して米軍側から苫小牧市に対して行われました。

「親善及び友好」を口実とした度重なる米艦船の北海道内への入港は、北海道における民間港の軍事的利用を常態化させています。さらに、今回の寄港は、苫小牧港を軍港化させる下準備を目論んでいるものと想定されます。これは非核平和都市条例を制定した貴職をはじめ苫小牧市民の努力を踏みにじるものです。

また、日米間の「核密約」が明らかになり、これによれば核兵器を積載した米艦船の日本国内の港湾への寄港を「事前協議」の対象外としてきたこととなります。これは、これまで政府・外務省が「事前協議がないので核持込みはない」などと繰り返し回答したことが、自治体及び国民を愚弄する虚偽であったことになります。

したがって、貴職におかれましては、自治体の長として毅然とした判断を下されますよう下記の事項について要請いたします。

<要請事項>

1. 市民の平和と安全を守る観点から、米海軍ミサイル駆逐艦「グリッドレイ」の入港を許可しないこと。
2. 「日米地位協定第5条」は、通告だけで自由に入港できるとの定めではなく、入港を許可するか否か判断はあくまでも港湾管理権を有する苫小牧市長の判断・権限であることを、政府・外務省及び米国に対して明らかにすること。
3. 政府・外務省が、「日米地位協定」等を口実に入港許可を求めてきた場合、政府・外務省及び米国に対して「グリッドレイ」の核兵器不搭載の確認を求めること。

その際、「核密約」問題を踏まえ、「事前協議がないので核持込みはない」等の回答は認められるものではなく、文書による核兵器不搭載の証明を求めること。

以 上